



広島国際学院
創立78年



トマト水耕栽培(温室)

植物のおしゃべり・
植物信号検出実験



温室



押し花園芸福祉・ビギナー養成講座の様様



押し花作品(ちどりうちわ)

全国優勝の快挙!

軟式野球同好会

第28回全日本大学学生軟式野球選手権大会で

速報

温室・押し花・エコへの取り組み

特集 現代社会学部	2-3
盛大に「電気電子工学フェア」を開催	工学部 4
「海の日」、情報工学の世界へ漕ぎ出す	情報学部 5
パリダカラリー車がやってきた!	短期大学部 6
高校から発信	7
サークルフェスティバル	8
学外展	8
留学生の声	8
私の大学生活	9
学生時代の思い出と社会人になって思うこと	9
研究室紹介	10-11
ハイテク・リサーチ・センター研究報告会	11
海田町クリーンキャンペーンに参加	12
バイオが協力、温室完成	12

広報

第63号

平成17年10月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>

現代社会学部

3コース制に移行

現代社会学部が重視しているリサーチ・マインドとは、現実の社会を、本に書いてあることや、マスコミの報道を鵜呑みにするのではなく、自分で興味ある問題を見つけだし、それを自分の目で観察し、分析する能力を身につけることです。リサーチ・マインドのなかには、現代社会のトレンドを見つけだし、自分の進路を考えていくことも含まれます。現代社会学部は学生諸君が時代の新しい動きに対応した能力を身につけることをサポートします。現代社会学部を3コースに編成しなおしたのも、社会について自分の興味があることなら何でも研究できるというこの学部の良さを活かしながら、同時に、現代社会の趨勢に対応した実践的能力を身につけてもらうことをめざすためです。



1年次には、総合教育センターと連携し、これまで重視してきたコミュニケーション能力、英語力、情報技術の能力を身につけてもらいます。また、次にあげるどんなコースの教科を学習することが自分に向いているかを考えてもらいます。

① **産業社会コース** 社会で働くための基本を身につけるとともに、自分でデータを集めて分析する社会調査の能力を育てます。社会調査は、急速な市場と流行の動きを見極めるために重要です。現代社会学部は、この近辺の文系学部と比べ、高い就職率を誇っています。それは、こうした社会調査の訓練や、発表と討議をくりかえす少人数ゼミを通じて、他者の考えを理解し、自分で考えて行動する能力が学生に育っていることのあらわれでしょう。産業社会コースは、この成果を継承し、国際経済の専門家やマーケティングの現場で活躍した人材を強化し、社会を学ぶことと、社会で働くこととの関連を明確にしたコースです。

② **国際社会コース** 今日の日本は、中国、韓国・朝鮮などの東アジア諸国や、文字どおりの地域共同体にまで拡大したASEANの諸国との紐帯が強固になってきています。地域社会でも、アジアや南米諸国の人々との交流が増加しています。世界共通語になっている英語教育を重視することはこれまでと変わりありませんが、同時に、その気になれば、中国語、韓国・朝鮮語を使いこなせるようになるよう授業科目を増設し、現代中国論、現代韓国・朝鮮社会論の専門家を強化したのがこのコースです。

③ **福祉社会コース** 少子高齢化の進展とともに、福祉の問題が人々の痛切な関心になっています。現代社会学部では、2003年度から社会福祉士の受験資格に対応する授業科目を整備し、多くの学生が熱心に学んでいます。福祉関係の教員をさらに強化し、最終的には老人福祉・介護福祉・児童福祉のすべてに対応できるコースをめざします。また、ボランティア活動の実践を重視し、地域社会と密接にかかわっている教員が多いこともこのコースの特徴です。

現代社会学研究科 一社会学博士号取得を目指して一 博論 苦闘中！

大学院博士課程後期 さ さ き てつじろう
佐々木 哲二郎

入学から2年半が瞬く間に過ぎました。12月の論文提出に向け、9月末までには粗雑ながらも全体のメドを立てたいと苦闘しています。

ふりかえればこの状況は、3年前の入試面接の折から予告されていました。そのために設けられた合同ゼミで丹念に発表をしておれば、この苦戦を避けられたのにと悔やまれます。切羽詰まらなさと拍車がかからない生来の怠け癖に加え、資料探しに何時間も要したり、加齢による物忘れであったり、迫る時間が悔いと焦燥感をもたらします。

福祉の現場での実践を理論化したいと後期課程に挑戦しましたが、浅才の及ぶところではないとあきらめ、また仕事の関係で一度は挫折しかけていました。先生方の励ましと丹念なご指導をいただき、執筆ははかどらないながらも現場での実践でめざしてきたことが少しずつ明確になるかすかな手応えを感じてきています。

こんな折、大学院入学をめざして勉学中の友人から西田幾多郎の歌に託した決意が寄せられました。私も続くようにとの励まします。

あたごやま
愛宕山 入日のごとく 赤々と
燃やし尽くさん 残れる命

再就職に役立つスキル伝授します — 県委託社会調査士コース —

現代社会学部は、社会調査の理論と技法の教育に力を入れ、社会調査士という資格を取得できる課程を設けていますが、2003年度からは広島県の商工労働部から委託されて、社会人の再就職のための教育訓練を行う社会調査士コース(6か月間)を設けています。

社会調査士コース履修者の再就職率は高く、中には広島市の地下街「シャレオ」の利用者に関するアンケート調査と観察調査を行って優れた調査報告書を書き、62歳で再就職した人もいます。

社会調査とは?	社会生活における人々の生活と意識を科学的に調査する活動です。住民意識調査、市場調査(マーケティング・リサーチ)、世論調査、好きなタレント調査、国勢調査などが具体例です。アンケート調査と呼ばれるものが社会調査の中心を占めています。
社会調査士とは?	社会調査を立案・実施し、実地調査で得たデータを分析するという社会調査の全過程について、専門的な知識と技術を身につけた人に与えられる資格です。
何を勉強するの?	社会調査に関する科目(社会調査論、社会調査実習、社会統計学、情報処理、マーケティング論など)を科目等履修生として学習します。これまで15名が修了し本学の社会調査士の資格を取得しています。
どんな役に立つの?	一般企業のマーケティング部門、広告会社、マスメディア、市区町村、都道府県、学校など、数多くの職場で直接的、間接的に資格を生かすことができます。

社会福祉士を目指して — 今年度の社会福祉援助技術現場実習 —

社会福祉士をめざす3年生6人が今年も実習に行きました。それぞれの希望により、沖縄県、鳥根県、兵庫県、そして広島県内の10施設に実習をお願いしました。ほとんどがお盆明けから二週間ずつと暑い時期でしたが、強い決意で頑張りました。

実習前はレポートと実習計画の作成に頭をしまり、山田陽子先生に「遅い」と叱咤激励されながら何とか準備を整えました。施設側の親切な指導を受け、緊張しながらも懸命に実習をこなし、夏が終わる頃には皆一回り大きくなって帰って来ました。

現代社会学部の実習は、ソーシャルワーカーとしての基本的な資質を養うとともに、自分の卒業後の進路にも役立つことをめざしています。従って、実習先も地元であったり、就職したい施設であったりと、学生のニーズに合わせて決めるため、毎年いろいろな地域の施設に行くこととなります。福祉分野では、施設側の望ましい人材確保の観点から、どのような人かある程度わかった人を採用することもあるので、実習でよい評価を受ければ、実習が雇用につながる可能性もあります。実習先を決めるのはとても大切な課題です。

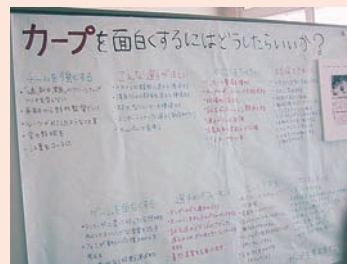


はなさきむら作業所(知的障害者通所授産)に事前訪問した実習生

オープンキャンパス

夏の日差しが照りつける8月7日(日)、上瀬野キャンパスで「現代社会学部オープンキャンパス」が開催された。

300人教室にて磯部卓三学部長の挨拶の後、迫勝則助教授が「広島とカープの未来を考える」と題し講演を行った。それからマルチメディア教室で谷口重徳助教授による模擬授業。パソコンを使い調査データを分析した。模擬授業後はキャンパス見学。マルチメディア教室、図書館、研究室など自由に見て回り、大学の雰囲気を楽しんでいた。そのほか「社会学なんでも相談コーナー」「入試相談コーナー」「学生生活相談コーナー」が設けられ、高校生や保護者らの質問を受け付けた。



カープ振興の秘策は?

現社フェア



ファッションは世につれ

9月3日(土)、立町キャンパスにて「広島国際学院大学現代社会学フェア」が開催された。現代社会学について市民の理解を深めてもらうのが狙いである。午前は池本良助教授による講義体験「タウンウォッチングで社会調査 — 携帯電話とデジカメで地球を考えよう —」。午後は中川早苗教授による公開講座「戦後ファッション史にみる世相と心理」。続いて、神戸ファッション美術館の百々徹氏に、「族と系 — 日本人とお揃いの衣服 —」と題して特別講演をいただいた。「ファッション」という身近な話題からか、聴衆は大変興味深げに聞き入っていた。ホールには展示コーナーも設けられ、学生の作品や論文一覧、学部紹介資料が紹介された。また、茶道愛好会による茶席も華やきを添えた。

現代社会学部のホームページ

<http://www.hkg.ac.jp/soc/>

盛大に「電気電子工学フェア」を開催

電気電子工学科

工学部



浴衣姿の参加者も

6月4日(土)、立町キャンパスにおいて「電気電子工学フェア」を開催した。一般の方々に学科の研究や教育内容をわかりやすい展示やクイズで紹介するもので、学生11名もボランティアとして参加した。当日は、広島の大きなお祭り「とうかさ」と重なったこともあり、午後だけで150名という盛況であった。

6月は環境月間のため、燃料電池、太陽電池、廃油処理の研究など環境問題に関連する展示をはじめ、ロボットや静電気の実験などバラエティに富んだ内容とした。さらに光のマジックショーやキャンディのつかみ取りなどもあって、大いに楽しんでいただけたものと思う。



可愛いロボットに注目が集まる

【主な展示内容】

燃料電池、太陽電池、廃油処理の研究、ロボットの組み立て、2足歩行ロボット、ライトレーサー、点字認識装置、光のマジック、半導体の実験、静電高圧実験、静電気の実験、鳥の声紋当てクイズ

「押し花園芸福祉・ビギナー養成講座」 — 見学者も花を添え —

バイオ・リサイクル学科

参加してくださった方はみな一様に楽しかったという感想を述べられました。また真剣に取り組まれ、指導するほうもやりがいがありました。今後高校コンテストやアドバイザーへのお勧めをしていきたいと思っております。本部をはじめ、広島国際学院大学、アドバイザー広島会や会員のみなさまのご協力に心より感謝申し上げます

7月16日、ワールドプレスフラワー協会 押し花園芸福祉アドバイザー広島会とバイオ・リサイクル学科の共催で、「押し花園芸福祉・ビギナー養成講座」が立町キャンパスで開催された。

「立町ラーニングプログラム」の一環。高校の先生方6名、大学生8名、福祉関係者3名を含む23名の参加を得た。本学科の女子学生3名がアシスタントを務めた。

ワールドプレスフラワー協会からは、三好基子氏(本学非常勤講師)を含む7名が指導に当たった。また、本学科の男子学生2名を含む5名の見学者も花を添えた。

三好基子氏と本学科の遠藤敏郎教授の挨拶の後、ワールドプレスフラワー協会の松浦千鶴子氏の指導説明を受けながら色々な作品を制作した。短時間内のハードな作業ではあったが、参加者一同、全てを履修できたという充実感を味わったようである。最後に「第2回高校生押し花コンテスト」への参加呼びかけ、「パワーの泉」の説明及び作品の鑑賞会を行い、修了証書を授与して終了した。

現在、本学ではエコ・ヤード建設を進めており、日本的な技術・技能としての「押し花」技術、あるいは園芸福祉技術をも取り入れたエコロジカルな環境創生事業の展開を目指している。



三好先生



ワークショップ風景



作品(ちどりうちわ)

open campus open campus open campus open campus open campus open campus open campus open campus open campus 工学部・情報学部オープンキャンパス

工学部・情報学部の本年度第1回オープンキャンパスは、8月7日(日)に開催された。当日は快晴で夏の暑さが一段と厳しい1日であったが、たくさんの方々に参加していただいた。参加者は昨年同期に比べ100名以上の増加であった。

まず「全体会」で見学のスケジュール・ポイント・注意事項などを説明。その後各学科で趣向を凝らした分科会を同時開催した。あわせて19テーマにも及ぶ展示・公開・模擬授業・体験など20分を1コマに合計4回行った。

終日開催する全体企画として「エコ・ヤード」「図書館」「就職課」の見学と「お茶席」「ランチ」体験などを行った。パンフレットと学内地図を頼りに自由に見学・参加できるということで、大部分の参加者に好評を得た。また、オレンジキャップをかぶった「キャンパスアドバイザー」という在学生の案内人を各学科に配置し、自由見学方式をサポートした。展示場所の案内や見学ポイントの質問はもちろん、授業や先生のこと、大学生活の楽しさなど学生生活に関する質問にも明るく元気よく答えていた。アンケートにも「在学生が親切に案内してくれてよかった」などの意見が多数寄せられ、担当者一同大変感激している。

今年度は「全体会」会場にパネル展示や作品紹介など各学科を紹介するブースを設置して、見学を希望していなかった学科



大勢の高校生が参加した

情報学部 「海の日」、情報工学の世界へ漕ぎ出す

— 平成17年度情報工学フェア —

情報工学科

7月18日に立町キャンパスで「情報工学フェア」を開催した。延べ100人が見学を訪れ、興味深く、賑やかにそして面白く参加した。

フェア実施の目的は、本学科が取り組んでいる教育研究の内容を多くの人々に知ってもらうためである。主力となる柱は、①コンピュータ・ネット技術者養成の「CCNA」、②複数のロボットが情報の連絡を取りながら行動する「分散型知能ロボット」、③インターネットを利用した自学自習ができる「e-Learning」の3本立て。その他、レゴロボット制作、コンピュータ回路設計と製作、コンピュータ応用など一般の人にも分かり易くした形式で展示、実演した。大多数の人が情報工学にある程度の理解をしたものと思われ、今後に期待する。



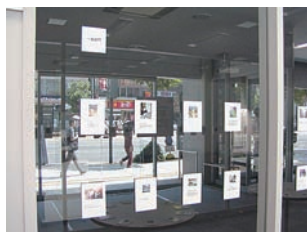
子供たちも興味深げ



展示や実演もわかりやすさに配慮

ちいさな平和コンテスト

情報デザイン学科



全国から作品が寄せられた

「ちいさな平和」コンテストとして携帯電話で撮る写真コンテストを実施した。戦後60年を経て、みんなでもう一度平和について考えてみようという企画であった。特に、若い人たちに考えてもらいたいということで、若者に身近な携帯電話で撮る写真とした。一般部門と高校生部門を設け、北は北海道から、南は沖縄まで様々な方からの応募をいただいた。この企画はマスコミ各方面の注目を集め、テレビや新聞、タウン誌からも取材を受け、大学名・学科名を含めて広くPRしていただいた。県内公民館・全国美術館・県内高校写真部にチラシを送付し、公募ガイドに掲載してもらい応募を募った。その結果、一般部門111通、高校部門24通の応募をいただいた。広島よりも他県からの応募が多く、原爆を投下された広島の人々も平和についてもう少し考えていく必要性を実感した。入賞者も他県の方が多く、入賞展示の様子もテレビのニュースで放映してもらい、取材陣からも「来年も開催されますよね」と期待されているようである。テレビ放映でも、「携帯電話の写真というところが若い人に身近でいいですね」とコメントしていただいた。来年度は2回目を予定している。



あなたのベストショットは？

open campus open campus open campus open campus open campus open campus open campus open campus open campus

も容易に見学できるように工夫した。また、在学生の体験談として、「なぜこの大学を選んだのか」「いまこの大学でハマっていること」「将来やりたいこと」などを「全体会」で発表するプログラムを設けたところ、参加者はみんな興味津々で目を輝かせて聞いていた。

回収したアンケートを見るとアクセスや建物の外観などは評価が低いものの、教育・研究設備や出展(教育・研究内容)には評価が高く、ほとんどの参加者には、印象の良い大学と評価されている。



元気な高校生が大学の力に

近年では保護者の参加も増加し、建学の精神や教育目標・方針、教育の特色と実績、経営状況の開示など「変革する本学の大学像」を説明する特別プログラムを設けるなど、保護者にも評価を高めていただくための効果的な方法を、当面の課題として模索している。また、工学部・情報学部ではオープンキャンパスに参加した高校生は約70%が本学を受験したという昨年度の実績を考えると、いかに参加者を増やすかが今後の最大の課題であるとの認識を新たにしました。



見学をサポートする「キャンパスアドバイザー」も大活躍

open campus open campus open campus open campus open campus open campus open campus open campus open campus

アフリカでは、風と埃、夜間作業で睡眠不足と過酷な条件で体調も悪くなり大変でした。後半は身体も慣れ全力で整備でき、無事に完走できホッとしました。自動車短期大学で学んだことが今日に結びついたものと思っています。



二宮さん

上瀬野の山々から朝日が差す6月9日(月)8:30、待ちに待った「日野レンジャー」が到着した。今年1月に行われたパリ・ダカラリーで堂々2位に入賞した「強者」である。この日はクルマの技術的な説明や解説をしていただくため、広島日野自動車(株)から4名の技術スタッフが来学。その中には、メカニックとしてレースに出場した本学卒業の二宮真吾さんも含まれていた。



パリ・ダカラリーに出場した日野レンジャー

「日野レンジャー」はキャンパス内に展示され、230名余りが熱心に説明を聞くなど、終日盛況であった。15:00から教室で宗像サービス部長の概要説明、二宮さんの体験講話に続いてレースのビデオ鑑賞を行った。約80名の車好きの学生が熱心に耳を傾けていた。学生からも「部品に軽量化が図られている」「レースはドライバーのみが脚光を浴びますが、メカニックの大切さがわかりました。自分もメカニックをめざしており、先輩が活躍しているのに勇気づけられました」とのコメントが寄せられた。メカニックとして巣立つ者としてポイントを押さえているのに感心した。

open campus open campus open campus open campus open campus open campus open campus open campus open campus

ようこそわが学舎へ — オープンキャンパス・体験入学 —

6月19日と7月31日にオープンキャンパスを、8月6日に体験入学を開催した。

今年のオープンキャンパスでは、イベント内容に新しいアイデアを取り入れた。例えば「なんでもコーナー」を設け、全体会では伝えきれなかったことや質問できなかったことを個別に相談できるようにした。スタンプラリーにもエアバッグの作動公開を取り入れ、衝突時の人命確保の技術と安全運転の重要性を説明した。また、「展示コーナー」も充実させ本学の特徴を分かりやすく説明した。



熱心に聞き入る参加者

恒例のイベントとなった「ゼロハンカーの試走」には、参加者ほぼ全員が見学を訪れた。エンジン音の響き渡る中を疾走? (実際には雨のため安全運転)する勇姿にしばしば注目が集まった。



エンジンの仕組みに「へえ」

一方、3年目を迎えた体験入学には、定員を大幅に超える希望者が殺到。応募期限直前に入る電話には締め切りのお詫びを申し上げることとなった。わずか半日でバイクのエンジンを分解、再び組み立てる。エンジンがかかって走れるようになると、汗の滴る真夏の暑さも超える充実感が高校生の表情から読み取れた。

来年度は、参加できなかった多くの希望者や、見学だけでもとおいでくださる方々への対応を充実させていきたい。

1 級整備士資格を取得して

専攻科第1期生 (平成17年3月卒)

やぶき けんじ
矢吹 健治



僕たち第1期生4名は受験対策がわからず、同時に受験する先生と一緒に問題の傾向を探り、類似の問題を作って解答するという受験勉強をしたのが実情です。本格的に勉強を始めたのは2年次の年が明けてからでした。これまでの試験問題を見ると、全て教科書から出されていることから、教科書の内容を全部覚えるくらいの気持ちで勉強しました。その時、一通り授業で習っていたにもかかわらず、いざ復習しようとするとき「こんなこと授業でやったっけ?」というのがよくありました。日頃の授業をもっと真面目に聞いておけばよかった、と何度思ったでしょう。過去に出された問題や予想問題に取り組んでも合格点に全然届かず、1か月前くらいからは、今までにないくらい必死で勉強しました。その甲斐あって、筆記試験では先生とともにも全員合格することができました。

最後の難関、口述試験もこれまでに出了た問題数が少なく採点基準もわからないため、1級保持者の先生にアドバイスをいただきながら模擬訓練を何度も何度も繰り返しました。試験は5月だったので、学科試験とは違い仕事をしながらの勉強は一層大変でした。試験当日は自分の出番が近づくにつれて緊張が高まり、直前は手の震えが止まりませんでした。今までの傾向とは違う問題に焦ってしまい、終わったときはダメだと思いました。合格通知を見たときはしばらく動けないほど嬉しかったです。

試験勉強するよりもこれからの方が大変だとは思いますが、1級整備士としての誇りを持ちながら、早くその名に相応しい整備士になるように努力したいと思っています。

僕たちの経験を生かして、2期生にも全員合格をめざして欲しいと願っています。

舞台・観客席一体…感動の渦 芸術鑑賞会



大胆な演出で盛り上がった吹奏楽部の舞台

6月24日(金)、広島郵便貯金ホールは本校生徒の熱気で溢れていた。舞台上には本校吹奏楽部の面々、観客席には本校の全生徒、全教員、70名ほどの保護者の姿があった。

校長の挨拶の後、司会者桂幾子さん(ラジオ司会者)の軽妙な司会とともに本年度の芸術鑑賞会の幕はあがった。本校生徒の演奏による芸術鑑賞は初の試みであり、どうなることかと心配もしたが、無用の心配であった。吹奏楽部の生徒たちの巧みな演奏と、愉快的パフォーマンスはたちまち観客席を魅了し、やがて舞台と観客席は一体となった。これほどの盛り上がりみせることを誰が予想したのだろうか。演奏する側も、鑑賞する側も無意識のうちにすばらしい「感動」の場を作り出そうと真剣であった。その結果、双方もとてつもなく大きな感動を得ることが出来、プロの演奏会鑑賞とは全く別種のさわやかな達成感と誇らしさを味わいながら会場を後にした。

吹奏楽部は今年も中国大会で金賞を受賞(3年連続)

核廃絶の願いを胸に刻もう 平和教育



BBCも本校の平和教育取材に訪れた

1983年から始まった平和教育委員会の取り組みは本年度23年目を数える。

7月14日、1学年はクラス毎に教室で被爆者から体験をお聞きました。この取り組みは、被爆60年という事もあり、BBC(英国放送協会)やNHKをふくめマスコミ5社が取り上げた。生徒たちも少し緊張気味に受け応えをしていた(8月6日にテレビ放映・新聞掲載)。

2・3学年は、6月に宮沢りえ主演映画「父と暮らせば」(原作井上ひさし・黒木和雄監督)を鑑賞した。

これらの取り組みを各自が50字の平和メッセージにまとめ、クラス平和宣言をつくった。さらに、各クラスの平和宣言をもとにして、全校平和宣言を作成した。作成委員として5名の評議委員が立候補した。まとまった宣言は、お話して下さった被爆者に暑中見舞いを兼ねて毎年お送りしている。

選手・応援団の心はひとつ 1学年特活

7月18日(海の日)、広島市民球場の3塁側スタンドは本校関係者で満ち溢れていた。野球部生徒保護者・OB・教職員に囲まれるように陣取った本校1学年の生徒たち(466名)の応援姿がひととき目をひいた。



県ベスト8まで勝ち進んだ本校野球部に、応援も熱がこもる

「生徒たちに出来るだけ多くの感動を与えたい」との校長の英断による「野球観戦特別教育活動」の10年ぶりの復活である。野球の応援は初めてということで、戸惑いがあった生徒たちも、応援団(野球部員)・吹奏楽部演奏の軽快な音楽にリードされて、一気に盛り上がっていき、相手チームの応援を圧倒していった。試合は本大会屈指の好投手を擁するシード校西条農業高校と互角に戦い、延長戦にもつれ込んだ。11回表、上野翔君(3年)の決勝3ランホームランで勝利を呼び込み、スタンドは感動の頂点に達した。グラウンド上の選手たちと応援席が一体となってつかんだ劇的勝利であった。

ベスト8の健闘…硬式野球部

高校野球夏の大会に出場した本校硬式野球部は準々決勝で今年度の優勝チーム高陽東高校に破れはしたものの、ベスト8の健闘を見せた。

1回戦	本校	16 : 8	吉田高校
2回戦	本校	6 : 3	西条農業高校
3回戦	本校	8 : 1	沼田高校
4回戦	本校	8 : 1	戸出高校
準々決勝	本校	1 : 14	高陽東高校

国際広場のシンボル 時計塔竣工

このたび、本校の生徒たちの憩いと寛ぎの場『国際広場』に新たなモニュメントが登場した。昨年来、PTA関係者、PTAのOB会役員の熱意による、「国際広場に時計塔を」がやっと実現の運びとなり、去る8月27日にその竣工式が挙行され、多数の関係者が集い、完成を祝った。PTAからの贈り物は国際橋を渡ると左前方にスックと立ち、われわれはその勇姿を仰ぎ見ることになる。塔の高さは5.5 m、時計の直径は80 cmと大きく、グラウンドの端からも十分時刻を確認できる。総ステンレス製で、大空に向かってどこまでも伸びていくようなその威容はまさに国際広場のシンボルの名にふさわしい。



大空に羽ばたけ!! — 時計塔

PTA関係者、本校教職員の願いは、あの時計塔の大空に向かった2つの翼のように、本校の生徒たちが無限に成長してくれることである。

あらためて、時計塔をご寄贈いただいた本校PTA関係者に心より感謝するものである。

第二回サークルフェスティバル

雨ニモマケズ、元気ハツラツ全員集合

7月10日(日)、大学学友会体育局および文化局の共催によるサークルフェスティバルが開催された。第二回となる今回のテーマは「楽祭」。遅い梅雨の最中、大雨のため開演が30分遅れたものの、約350人に来場いただいた。

演武祭、シエンロン原田、○×クイズが雨で中止され、プログラムが短縮・変更されるハプニングも。しかし応援リーダー部やMPA部の演奏、ゲストライブ、ビンゴゲーム、花火で賑わった。加えてブレイクダンス愛好会が飛び入りし、セミプロ並みの演技で会場を盛り上げた。

悪条件下、しかも2時間短縮のプログラムにもかかわらず、学生諸君の「雨ニモマケズ、元気ハツラツ」とした演技・演奏と参加者の声援が一体となったステージは感動的であった。反省点もあるものの、大成功裏に終えることができた。参加いただいた皆様、関係者に感謝している。



大雨の中盛り上がるステージ



ゲームに興じる参加者

第17回学外展「夢」

6月18・19日(土・日)、広島国際学院大学立町キャンパスで学友会文化局主催の第17回学外展「夢」が開催された。

文化系サークル(写真部、電子計算機研修会、美術研究同好会、ロボット研究愛好会)が出展した。中でも電子計算機研修会のパソコンゲームは実際に触れて楽しめるとあって、来場者はシューティングや推理パズル等に夢中になっていた。

全体的に出展数は少なかったという問題点もあったが、それでも、300名もの来場者があり、大成功に終わる事ができたといえよう。

来場していただいた方々及び手伝ってくださった関係者の方々に局員・サークル員ともに感謝している。

留学生の声

日本で初めてボランティア

現代社会学部 2年 ちょう張 しょう晶

私は2年前に日本に来ました。言葉が全然通じない国で、勉強しながら暮らさなければならない生活でした。日本語が話せないのも、外に出る勇気もなく、出かけても緊張して、何もできませんでした。私が寂しく辛い思いをしている時、ボランティアの日本語の先生と出会いました。この出会いが後に私の考え方に大きな影響をもたらすことになったのです。先生が教えて下さったお陰で、日本語がだんだんできるようになり、精神的に落ち着いてきました。ご指導下さった先生に心から感謝しています。それからボランティア活動に関心を持つようになりました。

大学一年生の時、私は「ボランティアとNPOの社会学」の授業を興味深く受けました。その時から、自分も何かボランティア活動をしよう、しなくてはならないのだと決意しました。異国でも、異文化でも、異言語でも、ボランティアができると思います。

私の初ボランティアは町内会の運動会の時、町民の方々と一緒に運動会の準備をしたことでした。交流しながらの準備と運動会は実に楽しいものでした。私はお世話をする事の喜びを感じました。そして、少しでもボランティア活動の楽しさを学ぼうと思いました。

現在、週一回、水曜日に、広島赤十字・原爆病院でもボランティアをしています。患者さんたちにお茶や洗面用具を配ったり、寝たきりの方の話相手をしたりしています。特にお年寄りに接する時は、自分の若い活力が伝わるようにと、いつも元気な声であいさつし、明るく振舞うようにしています。私は患者さん達が1日でも早く良くなるように笑顔で、やさしく親切に接しています。入院時には苦しそうな人が、元気になり喜んで退院していける姿を見ると、やりがいを感じます。

私は中国で全くしたことのないボランティアを日本で初めて経験しましたが、今、ボランティアをする楽しさを強く感じています。その上、ボランティアの意味と重要性が理解でき、社会に対する自分の責任感も強くなってきたと思います。この貴重な経験は私のライフワークとなり、これから国境を越えて行こうボランティア活動の種子となりました。



現社祭にて(7/7)
(左から二人目が筆者)

私の大学生活

先生、友達…たくさんの人に支えられ、夢に向かい進む

工学部 バイオ・リサイクル学科1年

さいだ ひろこ
佐井田 寛子

大学生活が始まって、半年がたちました。この間にもたくさんの友達や仲間と出会い、楽しく過ごしています。

私は今自分の夢をかなえるために勉強しています。まだ1年生で基礎科目しか勉強していませんが、ちょっとずつでも夢に向かって進んでいるような気がします。大学の講義の中で大好きなのは、「導入教育」です。自分が興味を持っていることについて基礎を勉強でき、また座学ではなく自分の体を動かして勉強するので大変楽しい授業です。

ほかにも、スポーツの授業が楽しいです。クラスの人たちと、スポーツを通じていろいろな話ができるからです。

また、高校とは違い朝から夕方まで授業が詰まっていないので、あき時間に友達とご飯を食べに行ったりトランプをしたりしています。この中で友達とのコミュニケーションをはかって今まで以上に仲良くなります。

サークル活動も楽しいです。今所属しているサークルとは別に、新しく建設された温室を活用し、園芸サークルを友達と立ち上げようとがんばっています。この活動でたくさんの花や作物を育て、高校で勉強したことを生かしながら、今までとは違った考えをもてたらいと思っています。

このように書くとても順調に見えますが、怪我をして約3週間講義に出ていなかったのがかなり苦勞をし、友達や先生にも助けられてがんばってきました。入学からまだ日も浅いのですが、たくさんの人たちに支えられていると感じます。

大学生活の中でやりたいことがたくさんあるので、ひとつずつがんばってやっていきたいと思っています。



学生時代の思い出と社会人になって思うこと

全国

とにかく「一番」を目指す！技術大会 優勝で全てがプラスに

自動車短期大学部 平成12年3月卒

ながみね ふみのり
長峯 史典



学生時代の思い出と言っても、自分の車をいじったり乗り回したり、とにかく車を中心に全てが行われていた気がします。昔からいろいろと車に触る事が好きで、身内も自動車関係が多いので、自動車短大に入れて楽しい毎日でした。ひとつひとつ学ぶ度に「そういう仕組みだったのか」と嬉しい気分になり、即座に自分の車を実験台の様に夜な夜ないろんな事をやっていました。しかし所詮は素人ですので、しょっちゅう壊して苦勞もしました。車好きが多く集まる学校でしたので、クラスメイトとの会話も弾み、友達同士の会話の中にも参考になる事が多くあり、有意義な短大生活だったと感じます。

短大を卒業し、共盛自動車工業（株）に就職しました。今年で6年目になります。共盛自動車には整備工場が5拠点あり、スズキやGM、ジャガー等正規ディーラー店で僕の所属しているところはマツダ（マツダオートザム安芸府中）です。地元マツダですので、お客様も多く来店され忙しい毎日を送っています。ディーラーならではのメーカー資格の試験や技術大会等、勉強をする機会に恵まれていますので、常にいろんな情報・技術がとり込めて刺激もあり、仕事に対して充実感があります。昨年の技術大会において中・四国大会個人総一位、全国大会の出場権を得て全国大会個人総一位という生涯でそうそう無い名誉を勝ち取る事ができました。エンジニアとして普段働いていて、自分の技術を試せる絶好の機会にこの様な結果を残せた事で自分に自信が付き、更には向上心・やる気等全てプラスに向いていきました。会社の方針でもありますが、とにかく「一番」を目指していますので、これからももっと上の技術を目指して日々勉強に励みます。

本研究室は、今年4月に開設したばかりです。

これまで私は広島市に勤務し、行政側からバイオテクノロジーの振興や産学連携推進などにかかわっていました。

専門技術分野は、各種工業材料の表面技術やリサイクルに関することなどです。

これまでの主要な研究として環境関係では、広島市との友好都市である中国四川省重慶市との共同研究「防錆皮膜に及ぼす酸性雨の影響と防錆仕様の確立」、マツダの協力企業グループとの共同研究「電解による電着塗装排水のCOD削減技術」や「熱処理工程における水系脱脂剤の性能評価方法」などがあります。



また、リサイクル関係では、「産業廃棄物（浄水場脱水ケーキ・石炭灰）を充填材としたワイピングステイン（木製家具用下地着色塗料）の開発」や「木質系材料の改質・複合化に関する研究（国庫補助）」などがあります。

4月からはバイオ・リサイクル学科の学生とともに、ガラス瓶のリサイクルについて研究を始め、当面は次のようなテーマに取り組んでいます。

- ① リサイクル性に富んだ染色法による瓶着色コーティングプロセスの開発（特願平11-245048）
- ② 発泡ガラスによる屋上緑化材料の開発
- ③ ガラスカレットによる成型品及び景観舗装に関する研究

更に今後は、廃棄物を主原料とする緩衝剤・断熱材の研究、バイオマスを活用したきのこ培地の研究、VOC・シックハウス対策を目的とした表面加飾技術の研究、木材の液化・発泡などにも取り組んで行く計画です。



「リサイクル性に富んだ染色法による瓶着色コーティングプロセス」で試作したガラス瓶



工学部 バイオ・リサイクル学科

やま さき かつ ひろ
山 崎 勝 弘 研究室

ガラス瓶のリサイクル技術



情報学部 情報デザイン学科

ふし み きよ か
伏 見 清 香 研究室

アウトプットの表現を制限する事なく 自由な研究を



私は、今年3月まで愛知県で仕事をしておりましてので、本学の研究室は、4月にできたばかりです。また、情報デザイン学科も、昨年4月からスタートした学科であるため、ここでは研究室の目標をお話させていただきます。

従来のデザイン分野は、ビジュアルコミュニケーションデザイン、プロダクトデザイン、スペースデザインの3つに大別され、さらに細分化されてきました。一方、情報デザインは、従来のデザイン領域を横断する新たな分野のひとつとして挙げられ、グラフィック、インダストリアル、インテリア、建築、ランドスケープなど、全てのデザイン領域に関っています。従来のデザインの多くが、人の生活に必要な「もの」や「こと」の計画を指すのに対し、情報デザインは、「人」と「人」、「人」と「もの」のコミュニケーションや情報、知識の共有といった行為や経験の伴う場合が多くなります。私自身の研究も、人と情報、情報空間と実空間をデザインによって繋ぐということを軸として研究を進めているため、従来の分類では多くのデザイン領域にまたがり、アウトプットの表現はさまざまです。

私は、もともと芸術系のデザイン研究を行っており、その視点を活かして、現在は名古屋大学に所属し、工学系のメンバーの中で新たな研究を進めています。本学の情報デザイン学科もスタートしたばかりですが、芸術系でも工学系でもない本学科ならではの、個性豊かな学科となればと考えます。研究室において学生とともに研究や制作も、自由な発想で固定概念に縛られず、また、アウトプットの表現も制限する事なく進めていきたいと考えています。

の 紹 介 ● ● ●

私の研究室は平素はいたって静かです。20平米ほどの研究室は授業の準備をする場所でもあり、その合間に一服する場所であり、自宅にあふれた本の置き場ともなっています。研究室にいるからそこで充電しているかと思われるかもしれませんが、実はそうではなくて放電ばかりです。私はドイツ語と国際文化論、日欧比較文化論等を担当しています。

昔ドイツ語を学ぶために何度かドイツに留学しましたが、その際に実に様々な国の人々と会話を交わす機会がありました。バブル以前のことで、日本の躍進が世界の注目を浴びていた頃なので私が日本人と分かる、様々な議論を吹かけられました。例えば日本はアンフェアだとか。私はそういうことに対して、興味がなかったのですが、日本が非難されると心中穏やかでなくなりました。それが日欧の貿易摩擦を調べるきっかけになりました。そこで、いかに自分が日本を知らないかを感じ知らされました。それから日本でブームになりつつあった、いわゆる日本論を数百冊読破して、いかに外国人に日本を説明するか考えました。日本という土俵でならば、あたりまえのことが西洋という土俵ではあたりまえでなくなる。それは何故かと訊ねられても、日本人にならば当たり前でしょうと言えは済むことでも、西洋人に対しては、そうは行かない。日本の空気の中で無意識的に体に染み込んでいたものを、言葉で論理的に説明しなければならない。何せ歴史も風土も宗教も違う人間に分からせるのは至難の技ではあります。しかし同じ人間であり、西洋の文学を学んで深く感動した私にとっては、理解しあえる共通項は沢山あると信じています。

学生、教員、一般人を問わず、同好の士の訪問を歓迎します。外から見た日本を一緒に考えてみませんか。



外から見た日本を考える

現代社会学部

こばやかわ ひろ すけ
小早川 宏 祐 研究室

ハイテク・リサーチ・センター研究報告会

ハイテク・リサーチ・センター所長 まえ た ゆう し
前 田 裕 司

第2回ハイテク・リサーチ・センター研究報告会を立町キャンパス・ホールにて開催した。

ハイテク・リサーチ・センターは、文部省（現文部科学省）の私立大学研究高度化推進事業（ハイテク・リサーチ・センター整備事業）によって平成10年（1998年）4月に発足。プロジェクト「超高純度金属の開発とその応用」のもとに、基礎研究を進展させて開発・応用研究を行うことを目標に設立された。発足以来順調に研究も進み、また研究開発や実用化も芽生え、特許の申請、ノウハウ等の基礎的・萌芽的データも蓄積され当初計画である5年間の研究を成功裡に終了することができた。今まで積み上げてきた実績を基盤として、現在も活発に研究活動を続けている。

今回はその後の発展として、ハイテク・リサーチ・センターと岡山大学、研究機関として理化学研究所、企業では日鋳マテリアルズKK等の協力・共同研究の状況の紹介を兼ねて研究報告会を行った。



発表風景



パネルによる研究状況の展示及び作製した超高純度アルミニウムの展示

研究報告会プログラム

- | | | |
|-------|--------------------|--------------------------------|
| 13:35 | 超高純度アルミニウムの機械的特性 | 本学大学院博士課程 吉田昌史 |
| 14:10 | 真空溶解中における高純度金属の蒸発量 | 前田裕司 |
| 15:00 | 高純度金属の原子核素粒子実験への応用 | 理化学研究所 竹谷篤 前任研究員 |
| 15:40 | 磁性材料の強磁場実験 | 岡山大学 理学部 小野文久 教授 |
| 16:10 | 高純度新素材開発 | 日鋳マテリアルズ 新素材開発センター 新藤裕一郎 首席技師長 |

(展示) 作製した超高純度アルミニウム単結晶 Al-Sc合金 他

高校より

海田町クリーンキャンペーンに参加 地域の住民とともに、流す汗

海田町主催による2005年度のクリーンキャンペーン（空カン等清掃）は6月29日（日）に実施され、本校近郊の住民の方々と、本校からはクラブを中心に多くの生徒をはじめ、長野校長、萩野教頭、各クラブ顧問、コーチおよび教職員11名が参加し、清掃活動に汗を流した。

当日は休日にもかかわらず、野球部、陸上部、バレー部、テニス部、バドミントン部、剣道部、バスケット部の各部員に加え、生徒保健委員長、副会長、各クラスの保健委員が続々と駆けつけ、総勢230名にもなった。川に下りると、道路や橋の上からは見えなかった空カン、瓶類、壊れたプラスチック製品が次々と出てきた。真夏のような暑さにもかかわらず、ビニール袋を持った生徒たちの積極的な行動は頼もしく、額の汗は美しく輝いて見えた。



力を合わせて川も美しく

清掃場所の本校近郊および三迫川、瀬野川はあっという間にきれいになり、視察に来られた海田町長さんも生徒の多さに驚かれた様子であった。

今後このような清掃ボランティア活動を通して住民の方々と一緒に一層信頼を深め、地域に根ざした高校を目指したいものである。

最後に、参加頂いた生徒及び教職員の皆さんに感謝申し上げます。



地域をきれいに！お掃除隊大集結

バイオが協力、温室完成

7月末、中野キャンパス10号館前に温室を設置した。「ものづくり」、「環境・資源」、「リサイクル」をキーワードとした“ものづくりエコ・ヤード”構想の一環として建設したものである。

当面は以下のような実証実験を通じて学生の実践教育に当たるとともに、温室を公開するなどして、地域とも連携しながら本学の教育をアピールすることとしている。

- ◆ 関連企業との共同研究による水耕栽培実験、薬用植物・稀少植物等の成長点培養実験、リサイクルペットボトルを利用した野菜・花等の栽培実験
- ◆ 関連企業との共同研究として、おから・食パン等の食品廃棄物や竹材等のバイオマスを利用した熱帯性キノコ等の栽培実験



キノコ栽培

- ◆ 屋上緑化の培地として、ガラス・鉄鋼スラグ・焼却灰スラグ等のリサイクルによる保水性多孔質セラミックス等の作製と多肉植物等の栽培実験
- ◆ 女子学生・地域の同好者等を対象として、押し花、ハンギングバスケット、寄せ植え等の製作実習

また、今後の事業計画として

- ◆ 光合成微生物（or 細菌）・特殊環境（生育）微生物、発泡ガラス・よし炭・炭素繊維等を利用した環境浄化技術やビオトープの実証実験

などを推進していく予定である。



7月末にできたばかりの温室。夏のオープンキャンパスでは大勢の見学者で賑わった。



トマト水耕栽培

この広報誌はホームページでご覧になれます。

<http://office.hkg.ac.jp/~kikaku/kouhou/>